

## 第5章 計画の目指すべき将来像、基本方針

### 1 背景と目指すべき将来像

#### <背景>

本県の農業・農村は、これまでも、そしてこれからも、県民に安全・安心な食料を提供するとともに、県土の環境を守る大きな役割があります。

人口減少・高齢化が本格化し、さらには想定外の自然災害やウイルスなど新たなリスクが顕在化する中でも、「岐阜らしさ」を存分に発揮した農業・農村づくりを目指します。

#### <目指すべき将来像>

- ▶ 経営規模の大小に関わらず農業者・漁業者が新しい時代に対応し、それぞれの役割のもと農業・農村を支える
- ▶ 自然災害などの危機事案に対応でき、強靱でありかつ食料供給の基盤等の多面的な機能を発揮できる農村を実現する
- ▶ 目指すべき姿の実現と並行して、新型コロナを教訓とし、また、新型コロナを契機に高まる「地産地消」や「田園回帰」などの潮流、国の「みどりの食料システム戦略」及び国際情勢等に伴う食料安全保障強化の動きやSDGsの理念を踏まえつつ、農業者等の所得増大や農村地域の活性化を図るなど農業・農村づくりを推進する。

### 2 基本理念と4つの基本方針

#### <基本理念>

「清流の国ぎふ」の未来を支える農業・農村づくり

～安全・安心で魅力あふれる「食」と「ふるさと」を目指して～

#### <4つの基本方針>

- (1) ぎふ農業・農村を支える人材育成
- (2) 安心で身近な「ぎふの食」づくり
- (3) ぎふ農畜水産物のブランド展開
- (4) 地域資源を活かした農村づくり

### 3 重要テーマ

人口減少、高齢化が進む中山間地域でも、本計画の基本理念を実現できるよう、重要テーマ「中山間地域を守り育てる対策」を設定し、重点対策を展開します。

基本理念

「清流の国ぎふ」の未来を支える農業・農村づくり

安全・安心で魅力あふれる「食」と「ふるさと」を目指して

基本方針と観測指標		重点施策
(1)	<p>ぎふ農業・農村を支える人材育成</p> <p>中心農業経営体数</p>	<p>①担い手の経営発展への支援強化</p> <p>②産地の実情に応じた多様な担い手の育成・確保</p> <p>③本格的な人口減少下でのスマート農業の全県展開</p> <p>④農村を支える集落営農組織・活動組織の持続的な活動のための体制強化</p>
(2)	<p>安心で身近な「ぎふの食」づくり</p> <p>食料自給率 農業産出額</p>	<p>①地産地消県民運動の展開</p> <p>②安心と信頼を届ける農畜水産物の生産展開</p> <p>③水田農業における安定供給体制の構築と新たな展開</p> <p>④家畜伝染病(豚熱、アフリカ豚熱など)に対応できる畜産産地づくり</p> <p>⑤県民の食を支える生産基盤の整備</p> <p>⑥食料安全保障の強化に資する生産・供給体制の構築</p> <p>⑦岐阜県版「みどりの食料システム」の取組推進</p>
(3)	<p>ぎふ農畜水産物のブランド展開</p> <p>農畜水産物の輸出額</p>	<p>①輸出拡大の強化</p> <p>②大都市圏の需要喚起に向けた販売促進の強化</p> <p>③飛騨牛をはじめとする売れる畜産物を支える体制強化</p> <p>④主要園芸産地の生産体制強化</p> <p>⑤新たな需要開拓による花き振興</p> <p>⑥鮎を守り育てる体制の構築</p> <p>⑦ブランド展開を支える新品目の創出と生産流通技術の開発</p>
(4)	<p>地域資源を活かした農村づくり</p> <p>耕地面積</p>	<p>①災害に強い農村づくり</p> <p>②農地の保全と生活環境の向上対策・鳥獣害対策</p> <p>③世界農業遺産「清流長良川の鮎」の保全・活用・継承と持続的発展</p> <p>④棚田など地域の魅力を活かした農村の活性化</p>

【重要テーマ】中山間地域を守り育てる対策

※観測指標(上記、点線枠内)  
複数の重点施策による基本方針単位の効果を見るための物差しとして、「観測指標」を設定。